

京の町並にしつとりと馴染む 老舗の現代建築を訪ねて

—ミラノ工務店—

景観に配慮しながら、センスよく個性を主張する建物は、京都の町の財産となりえるのではないのでしょうか。

「川村さんにとって思い出深い施工物件のひとつが、「山田松香木店」の新築工事だそうですね。」

ええ。京都御所の程近くにあるお香の老舗にふさわしく、周囲にしつとり溶け込む佇まいであることはもちろん、多くの人に入っていたいただきやす

い建物というのがコンセプトになっていました。タイル、石といった洋の素材を多く用いながらも、全体として重さを感じず、落ち着きある和の美しさが息づいて、施主様にも大変満足していただきました。



工事部次長 川村 忠さん

温泉で知られる兵庫県湯村の出身。代々大工の家に生まれ、建築の道へ。京都に憧れてミラノ工務店に入社。一保堂茶舗など老舗の改修・新築工事を多数手がけ、同志社大学今出川キャンパス・田辺キャンパスの改修・新築工事では、重要文化財のハリス理化学館も担当。お寺が好きで、現場近くの社寺を訪れることも多い。

—特にご苦労された点がありますか？

これはどのケースにもいえることですが、私たちの仕事は、施主様と設計士のイメージや思いを、確実に形にすることなんです。当然、見た目だけそうなければいいというのではなくて、建物は丈夫であることが大事ですから、将来、不具合の出そうところをチェックし、アドバイスを言いつつ、けれど完成形を変えずに造り上げる。そのことが苦労といえば苦労でしょうか。また設計図を



外観入口



外観正面

山田松香木店新築工事
平成14年11月 竣工
設計・管理
株式会社岡崎建築設計室



店舗内観



洋の素材と、格子戸、軒など和の要素とが融合して、御所周辺の町並にやさしく溶け込む。

見て、「これは施工が難しいかな」という部分があっても、工夫と技術によって、設計士の意に沿うものを作るのが求められます。この物件の場合、施工のために工夫をした部分があるというりました。

—たとえば、どこをどんな風に工夫されたのでしょうか。

一例では玄関部分の壁材。瓦と同じ製法で作られる特殊なタイルを使っていますが、実はこれはかなり重量があり、本来、主に床材として使われるものなんです。そこで、壁にアンカーを打って、タイルの裏にピアノ線を貼り付け、アンカーとくくりつけて、さらにモルタルを入れて接着しました。

—では、川村さんご自身が、施工者として気に入っているところは？

思い描くイメージよりも、より美しく仕上げるにはどうしたらいいかを常に考えているわけですが、そういう意味で、扉の上の軒の木組みは「なかなかうまくいったな」と（笑）。釘が表に見えるというきれいに収めるにはどうしたらいいか、職人と何度も検討した賜物ですね。ほかにも、格子戸の柱の太さや間隔まで、設計士と職人と私とで綿密に打ち合わせをしました。

—まさにプロによる連携プレーですね。

それなくして、いい建物はできませんから。私

の役目は、屋根なら屋根、壁なら壁とそれぞれの専門の職人を手配し、設計士との間を結ぶことです。やはり、まずは「和」を作ることから配ります。特に職人に対しては、こちらが上から目線になるのではなく、率直に意見交換ができる関係が理想だと考えています。いい仕事をするためにもみんなのやる気を引き起こし、「この人のためならやってみよう」と思ってもらえるような現場監督でありたいと思っています。

—今後、手がけてみたい仕事は？

私は木の温もりや香りが大好きですし、和の要素がある建物にはずつと携わっていきたい。京都においてこのような建物には、町並みに配慮しつつ、設計士やお店の個性・主張がさりげなく盛り込まれていることが多いです。それぞれの思いをひとつの建物として実現していく醍醐味があります。それに、自分の手がけた物件を「ああ京都らしいな」と感じてもらえたなら、それは町並みを守る京都の財産にもなりえるわけで、京都の施工者にとっては大きな励みになりますね。



株式会社 ミラノ工務店

京都市中京区夷川通河原町東入鉦田町310番地
本社 ☎075-231-0177 (代表)
滋賀営業所 ☎077-522-4138
http://www.milano.co.jp ISO 9001 認証取得

MILANO